ヒアリング資料２

自殺総合対策への提案　貧困、孤独・孤立の観点から

大西　連　Ohnishi Ren
認定NPO法人自立生活サポートセンター・もやい 理事長
https://www.npomoyai.or.jp/　mail：ohnishiren@npomoyai.or.jp
Twitter : @ohnishiren　Facebook：ohnishiren

自己紹介：大西連（もやい理事長）

認定NPO法人
自立生活サポートセンター・もやい

日本の貧困・格差の問題に取り組む
・生活困窮者への相談支援
・ホームレス状態の人のアパート入居の際の連帯保証人引受、不動産仲介
・居場所作りやコミュニティ作り
・生活保護や社会保障制度の提言等

政府のSDGs推進円卓会議構成員
内閣官房孤独・孤立対策室政策参与
日本いのちの電話　理事

もやい

経済的に困窮する人間関係で孤立する	SOSを発信する	生活保護を受給する	アパートに入居する	自立生活を始める	つながりの中で生きる	安心で安全な社会で暮らす
当事者の気持ち	生活困窮 健康の不安 極度の我慢	恥辱の意識 (スティグマ)	住まいがない 不衛生な劣悪環境 単独入居が困難	安堵 滞納不安 孤独	疎外感からの解放 自分の居場所 希望、勤労意欲	社会のアウトサイダーからインサイダーへ
タッチポイント (当事者・社会との接点)	電話、メール、事務所で面談	役所同行	事務所	葉書訪問	サロン、コミュニティ	メディア、通信、SNS、講演（全国各地）
もやいの取り組み 具体的な活動	ホットライン	面接相談	制度利用サポート	入居先紹介	連帯保証人緊急連絡先	安否確認	イベント開催	居場所づくり	政策提言	情報発信	講演
4事業とミッション	生活相談・支援事業		入居支援事業		交流事業	広報・啓蒙事業
	貧困問題を**社会的に**解決する					
個人の変化	• 健康で文化的な最低限度の生活の確保 • 社会保障の利用		• (路上/公園/施設など広義のホームレスやネカフェ難民減少 • 勤労機会の確保		• 社会的孤立状態の解消 • 安全と安心	• 社会的理解の醸成 • 個々人の支援広がり
社会の変化	• ナショナルミニマムの実現 • 絶対的貧困の低減		• ハウジングファーストの進展 • 「貧困ビジネス」への対応 • 公的扶助の低減		• 無縁社会の克服 • 税収の増加	• 国・自治体の制度に • セーフティネットの充実（貧困の予防）
	SDGs（持続可能な開発目標） 2030アジェンダ “貧困をなくそう（NO POVERTY）” ＝＞ （相対的）貧困率を半減へ					

2020年2月以降、コロナで相談が急増

- 元々ネットカフェ生活をしていたが日雇いの仕事が減った
  ネカフェ代を払えなくなり路上へ

- 建築関係の仕事（請負）をしていたが不況で仕事が減った
  今月の家賃が払えていない

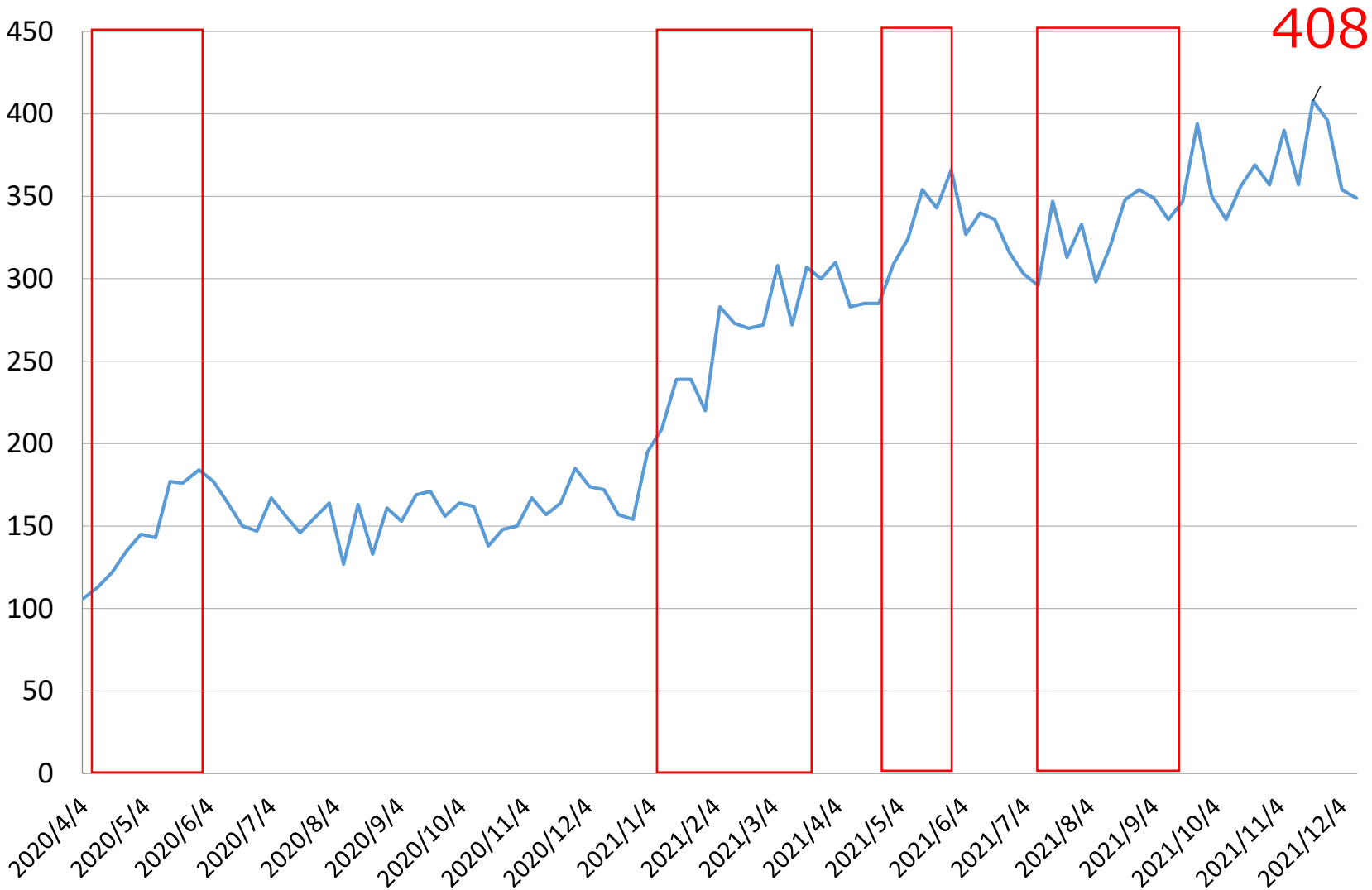
- 業務委託でイベント関係の仕事をしていたが仕事がなくなった
  友人と部屋をシェアしていたが家賃を払えずネットカフェへ

- 北関東の工場で派遣で働いていた。寮を今月中に出ないといけない
  寮を出ると行く場所がない

- いまネットカフェ生活をしていて営業停止になり、まだ貯金があるのでカプセルホテルで過ごす予定だが今後が心配

- 生活福祉資金の貸付の相談をしに行ったら、窓口が混んでいて面談予約が1週間後に。それまでの資金がもたない

もやい新宿都庁下での食料品配布に来られる方の推移（実数）



※赤枠は「緊急事態宣言」の期間

もやい集計データより大西連作成

事務所での面談・電話・メール
・チャット相談などと並行し、
毎週、土曜日に新宿都庁下にて、
食料品配布と相談会を実施。

土曜の相談会は現在、
・400人近くに食料品を配布
・５０人以上から相談
（市販の薬の配布ふくむ）

これまで、
・約2.5万人分以上の食料品配布
・約3万枚のマスクを配布

⇒いずれも昨年比で、
5～7倍の人数にのぼる。
若者、女性の姿も目立つ。

参考：相談事例

（プライバシーへの配慮から一部改変したり、複数の事例を組み合わせています）

・Aさん（20代女性）：洋服店で契約社員として働くもコロナで仕事が減り、うつ病もあり離職。父から幼少期より暴力あり、離職で関係悪化。
実家を出てビジネスホテルや友人宅を転々。希死念慮あり。

・Bさん（20代男性）：地方の工場で派遣で働くも契約更新されず失職。
寮を出てネットカフェ生活へ。父母は離婚し疎遠で連絡先も不明。
うつ病もあるが長らく受診していない。希死念慮あり。

・Cさん（30代女性・シングルマザー・未就学児1人）：
DVで離婚。養育費なし。パートをかけ持ち。公営住宅で生活。
家計はギリギリ。パート先の1つがコロナの影響でシフトが減り収入減。
生活の不安もあり不眠に。希死念慮あり。

・Dさん（30代男性）：飲食店で働くもコロナの影響で収入減。
休業補償や住居確保給付金、特例貸付を利用。貯金なし。
生の展望が見えず、希死念慮が強まる。

各窓口が結果的にワンストップになる必要がある

〈もやい〉は、本来、生活困窮者からの相談が基本

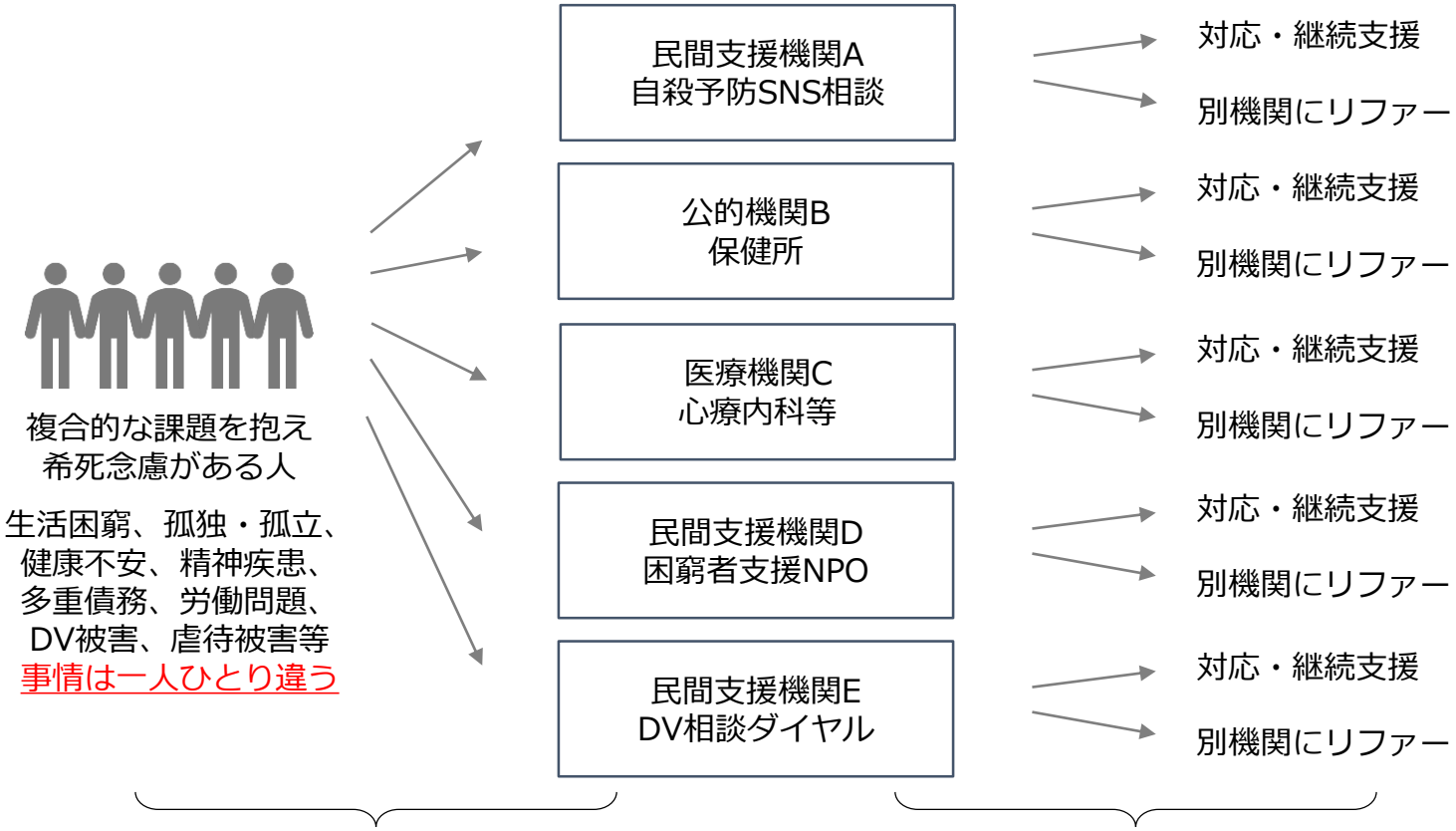
・失業、収入減により生活ができない
・家賃を滞納している、住まいを失いそう
・ホームレス生活、ネットカフェで生活
・DVや暴力などで家を出た、家を出たい

ここ数年、希死念慮を抱えた方も増加。
そして、コロナ禍ではその傾向が顕著になっている。

・希死念慮を抱えた方に生活困窮などの背景も多い

・希死念慮を抱えた方の最初の相談先が〈もやい〉になることもある

現場レベルでの分野をこえた連携、協力が必要



各支援分野の枠組みをこえて、官民の垣根をこえて、「大きなチーム」を作ることが必要。
顔の見える「大きなチーム」がワンストップ&ネットワークで伴走していく体制の構築を。

リファー「先」であり「元」である〈もやい〉

【リファー元の場合】

生活困窮と、ほかにも複合的な
課題を抱え希死念慮がある人

孤独・孤立、健康不安、精神疾患、
多重債務、労働問題、DV被害、
（事情は一人ひとり違う）

もやいで対応（生活困窮分野）
相談支援、入居支援、居場所等

支援機関A

支援機関B

支援機関C

支援機関D

各分野の支援機関に
必要に応じてリファー

・現状では、個別にツテや人脈をたどってリファー先につないでいる状況。
・仕組みとしてリファーやネットワーク作りができているわけではない。
・リファーやネットワーク作りに公的資金も入っていない。

リファー「先」であり「元」である〈もやい〉

【リファー先の場合】

生活困窮と、ほかにも複合的な
課題を抱え希死念慮がある人

孤独・孤立、健康不安、精神疾患、
多重債務、労働問題、DV被害、
（事情は一人ひとり違う）

支援機関A

支援機関B

支援機関C

支援機関D

各支援機関での対応ののち、
困窮分野についてもやいにリファー

もやいで対応
相談支援、入居支援、
居場所等

・現状では、各支援機関から個別に対応依頼がくる状態。
・仕組みとしてリファーやネットワーク作りができているわけではない。
・リファーやネットワーク作りに公的資金も入っていない。

ここまでの　まとめ

【希死念慮を抱えた人がどの支援機関に相談するかわからない】
　どこの支援機関に相談が来ても対応できる体制、仕組みが必要
　⇒大きなチームでワンストップ＆伴走支援の枠組み構築を！

【各支援機関は個別のつながりのなかで対応やリファーをしている】
　個別の関係をこえてつながる枠組み、連携、研修等の機能が必要
　⇒公的・民間の支援、広域・地域での支援を顔が見える関係に！

・大きなチームを作るには？
　官民、分野をこえた地域の広域での連携体制を作る。
　スキーム、ナレッジの共有、人材育成・ケアが必要。

・適切に「リファー（つなぐ）」「伴走する」には？
　リファー（つなぎ支援）に特化したチームを作る。
　つながった人を地域で責任をもって支える仕組みを作る。

<u>⇒これらの公的予算をつけていくべき！！</u>

溺れている人がいるときに

【溺れている人を助ける】
・早期発見をする
・すぐ助ける　その技術を高める
・すぐ助けられる体制をつくる

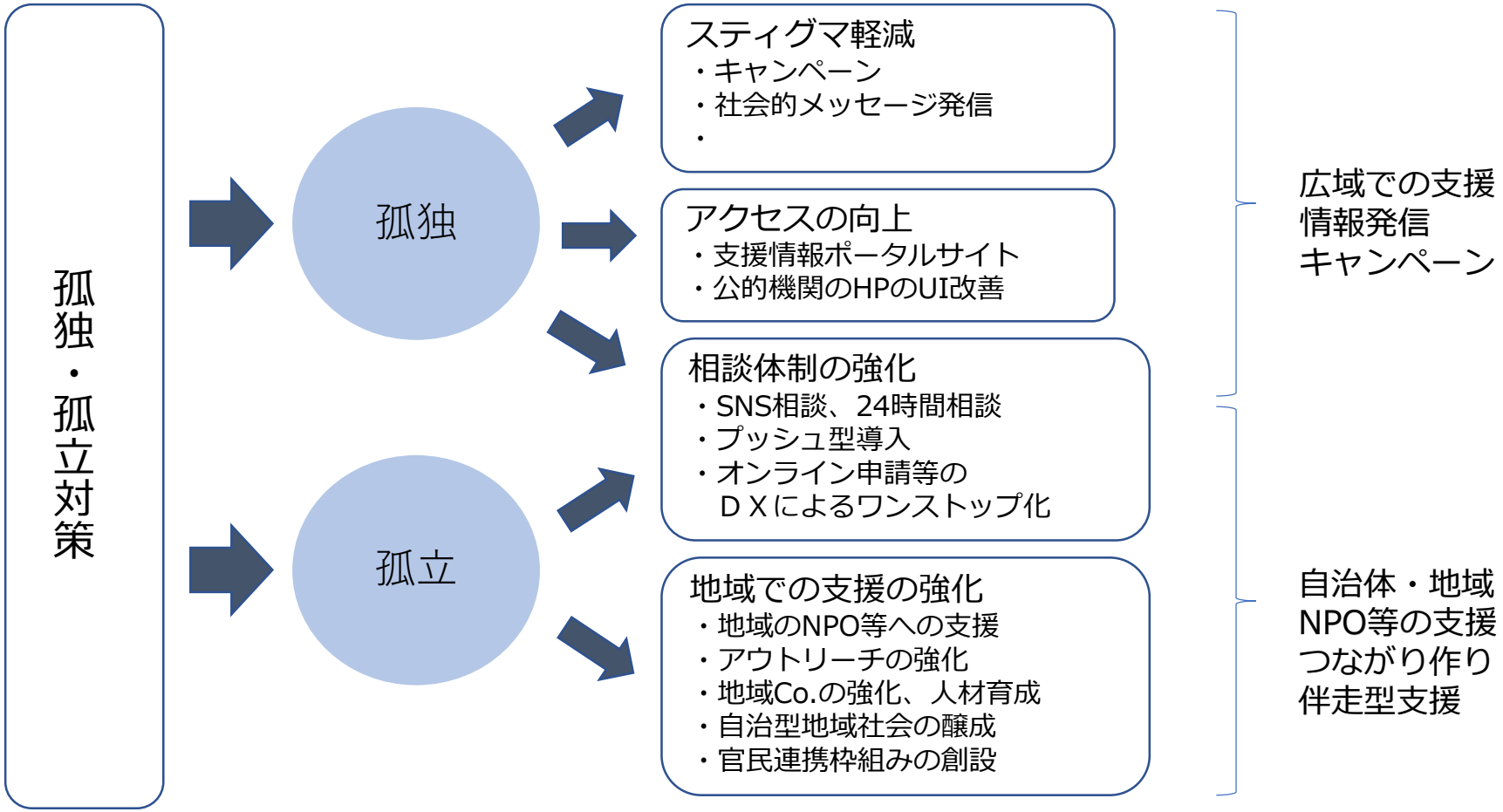
【溺れにくくする】
・溺れやすい状況を可視化する
・堤防を作る
・全員にうきわを渡す

【溺れない力をつける】
・泳ぎ方を共有する
・助けを呼ぶ方法を共有する
・安全に助けをまつ方法を共有する

【溺れても困らないようにする】
・水温をあげて冷やさない
・水深を浅くする
・助けてもらうのを当たり前にする

文責：大西連（内閣官房孤独・孤立対策室政策参与）

孤独・孤立対策の方向性（特に地域支援は社会の在り方を問う大きな話）



実態調査、計画、モニタリング等のサイクルで回していく

「いのち支える」ために
「公助の拡大」と「共助への支援」を！